

とうきょう すくわくプログラム

幼児クラス①自然・おもさの気づき

<活動のテーマ>

→自然

<テーマの設定理由>

→園庭や里山等、身近な自然がある子ども達。その中で子どもの気づきが広がり、遊びや活動が発展していると感じた為

<活動スケジュール>

→6月上旬：里山で梅の収穫をする

6月中旬：収穫した梅の重さについて考えてみる

7月：重さに興味を示した為、はかりとおもりを使った実験をする

7月：水遊びを通して、水の重さや流れの違いに気づき遊びを広げる

8月：園庭で収穫したすいかの重さと水の重さを比較してみる

9月：様々な物の重さを知った子ども達。スライムづくりに挑戦

10月・11月：戸外活動を通して、自然物への興味が広がる（葉っぱ・どんぐり）

12月：自然物の触れ合いから物の性質への興味・疑問が深まる

→はかりをお部屋に常設することで更なる興味へ繋がっている

<実際の様子>

活動<1回目>：里山で梅を収穫する

準備物：袋・かご



里山へ行き、梅の収穫を行いました。木に実っている梅に興味を示し、手を伸ばして取っていた子ども達。お友達や保育士に採れた梅の実を見せて共有している姿がありました。子ども達から「おおきさがちがうね」「こっちのほうがおもいかも」等と、大きさや重さに気づき疑問を抱いている声が聞こえてきました。園に戻って実際に重さをはかってみようと提案をすると、目を輝かせていた子ども達です。

活動<2回目>：収穫した梅の重さについて考えてみる

準備物：はかり・梅・テーブル

【はかり】を使って重さに触れることにしました。活動前に身体測定があったので、まずは『体重がみんな違うよね?』という投げかけをすると「ようふくをきているから、ちがう」「かおがちがうから」と違いには気づいている様子。『この梅の実はどんな重さ?』と、はかりを使って実験をする中で、「こっちのほうがおもたいから、はんたいがわのうめをふやしてみる」「ちいさいサイズのうめをへらしてみる」と様々な気づきを得た子ども達です。「ほかのおもさもしらべたい」と意欲も出てきたので、引き続き“はかり”を使って『自然』と『おもさ』から興味を広げていきたいと思います。



活動<3回目>：はかりとおもいを使った実験

準備物：はかり・おもり・テーブル・玩具



前回他の重さも調べたいという意見があったので、今回は【10グラムってどんなおもさ?】を皆で考えました。10グラムの重りとお部屋にある玩具の重さを比べてみました。同じ重さになると「おー!!」と目を輝かせていた子ども達。途中で「10グラムのおもりのたかさと、ジスター(玩具)のたかさをおなじにしたら、おなじおもさになるんじゃない?」という声があったので、実際にやってみました。同じ高さで測っても、同じ重さにならないという結果になり、みんなで「ちがったー!」と新たな発見をしました。子どもたちの声を拾いながら実験をすることで、想像力や疑問等が深まっていました。

活動<4回目>：水遊び

準備物：水・コンテナ・バケツ・シャベル・玩具（車・船）・雨どい

水遊びで水に触れて感触を楽しんでいる姿がありました。→遊びを発展させる為に【雨どい】を用意してみました。そうすると、コンテナに雨どいを立て掛けて、船を流して遊ぶ姿が見られました。どうやったら雨どいの上を船が流れていくかお友達と相談している姿がありました。バケツやカップ等を使って水の量を変えながら、試行錯誤していた子ども達です。その結果、「バケツのほうが、はやくながれる！」と、水の量や流れの面白さに気付いていました。



活動<5回目>：園で育てた小さなスイカの重さを調べよう

準備物：スイカ・水・はかり・テーブル・デジタルスケール



園庭で育てた小さなスイカを収穫して、子どもに何と比べるか聞いてみると「いがたぶろっくやりたい」「みずはどうかかなー？」等、案が沢山出てきたので、実際にスイカの重さと同じになるにはどれほど必要か実験しました。案の中の“水”をビーカーにそそぎ、みんなで「もうすこしかな？」「おおかったね」等やりとりしながら調整し、同じ重さに近づけました。その後、実際にはかりで何gか量ってみることにしました。

その結果、スイカの重さは198g、水は199gになりみんなで「おー！！」と大興奮しました。最後にスイカと水の入ったビーカーを片方ずつ持ち、「すいかのほうがおもしろい！」「どっちもおもしろい！」「みずのほうがおもしろい！」等色々な感覚や発見がありました。すくわく活動を何度か行う中で「〇〇はどう？」「〇〇は？」等と案を出す姿が多くなりました。



活動<6回目>：スライム作り

準備物：はかり・デジタルスケール・ボウル・洗濯のり・ホウ砂・水・割りばし
テーブル・椅子・テーブルシート・ホワイトボード

物の量や性質に興味が高まっていたので、スライム作りをしてみました。スライムを作るには何が必要か聞いてみると「みず」「すらいむのこな」「のり」等、様々な意見が出ていました。必要なものを話し、それぞれ分量を間違えらうまく固まらない為、子ども達と“何がどれくらい必要か”を考え、はかりで重さをはかりながら作っていきました。最初は固まっていなかった液体が徐々に固まる様子に目を輝かせていた子ども達。割りばしでかき混ぜている様子を見て「まるくなった!」「わたあめみたい」という声が聞こえてきました。完成したスライムを手に取り、こねたり細長く伸ばしたりしながら自由に遊んでいる姿がありました。中には、スライムの中の気泡に気付き、「このつぶつぶって、コーラとおなじつぶつぶ?」と疑問を抱いている姿もありました。



活動<7回目>：戸外活動を通して、自然物への興味を広げよう

準備物：自然物を入れる袋（ビニール袋やジップロックの袋）・図鑑



散歩先で様々な自然物に触れて遊んでいた子ども達。大きさの異なる葉っぱを発見して、近くのベンチに並べる姿がありました。「はっぱのちいさいのからならべてるの」と言いながら、お友達と協力して一つ一つ大きさの違う葉っぱを見比べて、「こっちのほうがちいさいよ」「おおきいのあった」と自然物を通してやり取りが広がっていました。

他にもどんぐりを拾い集めている姿がありました。どんぐりそれぞれの大きさや重さ、種類の違いに気付き、「このどんぐりおもい」「こっちはあかちゃんだから、かるいね」と重さの違いの面白さに気付き、夢中で拾い集めていました。

活動<8回目>：はかりを常設してみよう

準備物：はかり・机・棚・玩具・使い方のお約束用掲示物

自然との触れ合いを通して、様々な物の性質に気付き、はかりで量って確かめたいという思いが広がってきた為、保育室に【はかり】のコーナーを作りました。はかりの使い方のルールを子ども達と一緒に確認して、保育室に掲示しました。ルールの掲示を見たり、5歳児のお兄さんお姉さんに使い方を聞いたりしながら、やりとりを広げている姿が見られています。

玩具や自然物等、様々な物の性質の面白さに気付き、考えたり工夫したりして学びを深めている子ども達です。「こっちのほうがおもいんだ」「これとこれ、おなじおもさだったよ」等、驚きや新たな学びへと繋がっています。



<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の取り組みを通して、身近にある自然の中で子ども達が様々な物の性質に気付き、発見や疑問を膨らませていることに改めて気付くことが出来ました。子どもの声を拾って、次への活動に繋げることで子どもの興味関心の広がりが見えました。又、自然物への興味から、【はかり】という道具を取り入れることで、“大きさの違い”、“重い・軽い”という漠然とした子どもの気づきが見える形になり、子ども達の中での発見や興味へと繋がっていました。【はかり】を使うことで、自然物の重さに気付き、水遊びの中でも、水の量で重さが変わることを知り、小さいカップより大きいバケツの方が重くなって船が勢いよく進むんだ！と試行錯誤の中での学びも見えました。保育士が伝えてしまうのではなく、子ども自らが挑戦し理解することが学びになっているのだと再確認できる機会となりました。

その後のスライム作りや葉っぱ並べ、どんぐり集め等でも子ども達が考え、発想豊かにお友達や保育士に質問したり共有したりして遊びを広げています。子ども達からも「〇〇のおもさってどのくらい？」と疑問を持ち、【はかり】で確かめてみようとする姿もありました。身近な自然物の性質に触れながら、常設された【はかり】を通して、興味関心や学びを深めている子ども達です。今後も子どもの気づきや疑問の声を拾いながら、環境を整えて遊びを広げていきたいと思えます。